

福岡県交通安全施設業協会の「令和2年賀詞交歓会」開く

関係者約170人が、安全・安心な道路交通安全の実現や協会活動の活性化を誓う



新年に向けて、安全で安心な道路交通安全環境の実現と業界発展を誓う「令和2年賀詞交歓会」

(一社)福岡県交通安全施設業協会(田中賢哉会長)の「令和2年賀詞交歓会」は23日、福岡市の博多サンヒルズホテルで開かれた。会員や賛助会員、来賓の福岡県県土整備部の見坂茂範部長や幹部職員、福岡県土木親和会交通安全部会の関係者ら約170人が出席し、令和2年の新年に向けて、安全で安心な道路交通安全の実現と会員の団結や協会活動の活性化を誓い合った。

賀詞交歓会は、和田隆浩氏(株)山水製作所)の司会で進行、浅田実弦理事(株)久留米道路施設)の「開会の言葉」に続いて、来賓紹介があり、顧問の福岡県議会議員の藏内勇夫県議(日本獣医師会会長・自民党福岡県支部連合会常任相談役)、原口剣生県議(自民党福岡県支部連合会会長)、松尾統章県議(自民党福岡県支部連合会幹事長)3人と福岡県県土整備部の見坂県土整備部長、野口次長、野上企画課長、久保道路維持課長が紹介された。

主催者代表挨拶の田中会長(西日本ディックライト)は、協会設立3年目で正会員70社、賛助会員29社の合計99社の専門工事業団体となった。昨年の区画線・路面標示等の点検調査や路面標示施工技能士検定、技術講習会、研修会、要望活動、防災協定に基づく災害時支援、“子どもを守ろうプロジェクト”など活発な協会活動の実施状況等を報告して「専門工事業の協会として、交通事故防止の目的である安全と円滑な道路交通の確保のため道路標識、路面標示、防護柵等の施工技術の向上、製品に対



主催者挨拶の田中会長

する知識、労働災害の防止に努め、社会的地位の向上を図り、健全な業界の発展を目指していく」とし、「今後も専門工事業界として予算の確保、若年労働者の人材確保、外国人労働者の採用など業界として様々な困難な課題もありますが、協会員が一致団結し、知恵を出し合い乗り越えていきたい。そして、県政発展に取り組んでおられる顧問の先生方にも、顧問として顔が立ったと言われるように、また、行政からも信頼されるような組織づくりを進めて行きたい」と年頭に当たっての抱負を述べた。



来賓挨拶の見坂部長

来賓挨拶で、見坂福岡県県土整備部長は、県土整備行政や交通安全行政への支援とともに、大規模災害時の防災支援協定に基づく交通安全施設の災害支援活動に対するお礼と今後の支援協力をお願いし、「昨年の5月、滋賀県大津市で保育園児の列に車が突っ込むという大変痛ましい事故が起こり、それを踏まえ、福岡県議会においても安全対策の指摘を頂きました。そういった中で、顧問の県議の先生からのご支援もあり、昨年12月の県議会で、交通安全対策の予算1億7千万円を計上し、成立しました。例年、福岡県の交通安全に対する予算は3億から4億程度であり、それに対して1億7千万の補正を組んでいただいたことは非常に大きいこと。県ではガードレールの設置や路面標示などを早期に執行していく予定ですので、業界の皆様もしっかり頑張ってもらいたい。また、交通安全の仕事は無くならない仕事であり、将来に明るい展望を持って励んでいただきたい」などと激励した。

このあと、星子洋満副会長（双葉工業㈱）が乾杯の発声を行い、開宴。令和2年の新年を迎えるにあたり、安全で安心な暮らしが出来る道路交通安全環境の実現や業界の健全発展と協会活動の活性化に向けて、和やかに歓談した。



乾杯発声の星子副会長